

学校ビオトープと里山をつなげる

対 象：小学生以上の親子
 人 数：親子50人～親子70人
 教科／分野：総合的な学習の時間（理科・社会）、生活科
 授業時間数：4.5時間（里山活動の4月、5月分）昼食30分含む
 場 所：野外（大野台の里山：いのちの森里山フィールド）

ESD プログラムへの 思い	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回実施される「いのちの森の日」という自然体験活動を通して、自然環境とそこに生息する生きものへ関心を持ち、地域や自分たちの暮らしを見直し、持続可能な社会の実現に向かって努力する心を育みたい。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> いのちの森での体験だけではなく、いのちの森里山フィールドを整備し、活用することにより、生物多様性についての理解を深める。 学校ビオトープと里山の両方を比較することにより、自然を守り育てるために何をすべきかを自ら考え、行動できる子どもを育てる。 30～40年放置された里山を整備することで、地域の生物多様性に寄与する。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の里山に隣接する道路の草刈りとゴミ拾いを実施し、地域との交流、連携を図っている。 里山整備が進むにつれて、活動できるフィールドが広がり、プログラムも変化する。 さらに、観察できる動植物も変化する。 		
持続可能な社会づくりの 構成概念	<p>多様性：里山は、雑木林・田んぼ・小川・ため池・原っぱなど多様な環境があることで、多様な生物が生息していることに気づく。</p> <p>相互性：生物が生息する環境づくりに、農業・人の暮らしなど関わりがあることを知る。</p> <p>連携性：生き物が棲める場づくり、またそれを維持するために、多くの人が協力し、連携していることを知る。</p> <p>責任制：生きものが棲める環境を守り育てるために、自分でできることを見つける。</p>		
重視する 能力・態度	<ul style="list-style-type: none"> ③多面的・総合的に考える力。 ④コミュニケーションを行う力 ⑤進んで参加する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦他者と協力する態度 		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
30分	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性とそれを担保している自然に気づく 里山とは何かを知る。 	いのちの森 里山フィールド 講義	<ul style="list-style-type: none"> ◆導入 里山の歴史と現状、学校ビオトープと里山の関係、そして生物多様性について話をする。 里山でのマナーや注意事項について話をする。
40分	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生き物を育む田んぼの価値に気づく。 	いのちの森 里山フィールド 全員参加型	<ul style="list-style-type: none"> ◆田植え体験 里山の生き物に触れながら田植え体験をする。 (ニホンアカガエル、コオイムシ、ドジョウ、クロメダカなど)

30分	<ul style="list-style-type: none"> 学校ビオトープと里山の違いに気づく。 	同上 同上	<ul style="list-style-type: none"> ◆里山ガイドツアー ・例えば、ノウサギの小道など、気づきにくい箇所を説明しながら、里山フィールドを一周する。 ・里山散策する場合や注意点も話す。
30分	<ul style="list-style-type: none"> 土に触れる体験を通して自然について考えるきっかけにする。 ・地域ごとの土が違うことに気づく。 	同上 同上	<ul style="list-style-type: none"> ◆楽焼き体験 ・土をひねり、カップやお皿を作る。 (9月に、焼きあがったカップやお皿に絵付け)
40分	<ul style="list-style-type: none"> いつも観察している学校ビオトープと里山の生き物の違い、自然環境の違いに気づく。 	同上 同上	<ul style="list-style-type: none"> ◆生き物調査隊 ・里山の生き物を探す。 ・生き物がいそうな場所を予測する。 ・どこに、どんな生き物がいるのかを体験を通して学ぶ。
40分	<ul style="list-style-type: none"> 里山遊びの楽しさを感じ、その自然を守る行動に導く。 ・自ら遊びを考える力を身に着ける。 	同上 同上	<ul style="list-style-type: none"> ◆里山遊び ・基地づくり ・ハンモック ・ターザンロープ ・野草摘みなど
30分	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを通して、感じたことを整理し、自ら考える力を養う。 ・大切な自然を守るには、何をすべきかを自ら考える。 	同上 同上	<ul style="list-style-type: none"> ◆まとめ・討論 ・今日気づいたことを発表する。 ・これからできることを考え、実践に結び付ける。
SDGs との 関連性	3：健康と福祉 4：質の高い教育 9：産業・技術革新・社会基盤 11：持続可能なまちづくり 12：持続可能な消費と生産 15：陸上の資源 17：目的達成に向けたパートナーシップ		
学校・地域等 との連携上の 考慮	<ul style="list-style-type: none"> ・親子での参加体験は、お互いが学び合う良い機会となるので、可能であれば、親子参加が望ましい。 ・フィールドでの活動となるので、安全管理など連携して役割を担う。 ・「いのちの森の日」で学んでいる内容を学校、地域にも知らせ、共通理解を深める。 ・地域の貴重な自然体験の場である「いのちの森」さらに、そのモデルとなっている「いのちの森里山フィールド」を守り、育てて行く仕組み作りを行う。 ・校外学習などの体験の場としての活用も協議する。 		
対象を 発展させる 可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけの参加も、対応可能。 ・毎月1回実施しているプログラムであるが、単発の参加にも対応。 ・ファミリーでのキャンプ利用も可能にする。 ・イベントの時だけでなく、日常的な里山保全活動への参加の可能性を探る。 		
その他 補足事項	服装：長そで、長ズボン、動きやすい服装、靴、帽子、 持ち物：網、虫かご、タオル、飲み物、虫刺され薬品等 ※熱中症対策、防寒等季節に適した服装等配慮する		